

2026年05月12日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【難しい相場は避けても良い】

今年は、円安トレンドが、より一層鮮明になり、投資家が利益をあげやすい年になるのではないか、と考えていました。

また、円安は株価を押し上げ、日本の経済に好影響を与えるという点では良いと思うのですが、その一方で、

『円安の根本的な原因は、日本の国力の衰えに起因しているのではないか?』

という点に、危機感を抱いています。

とはいえ、相場に携わる者の最大の目的は、相場から利益を得ることなので、円安傾向が鮮明になるのなら、それに逆らう必要は、全く無い、と考えていました。

上述のように考えていたのですが、このところのドル/円相場は、日本当局の介入により、160円を上限にして、制限された格好です。

日本の株式相場は、事前に想定した通りに動いた、と考えます。

+++++

対ドル相場は、手がけ易い値動きになると考えていたのですが、反面、クロス円の値動きは混沌としてくるのではないかと考えていました。

通常は、円安傾向が強まればクロス円は上昇しますが、ドル高傾向が強くなった場合は、クロス円には下落圧力もかかるので、トータルで見れば、綱引き状態となります。

だから、今年のクロス円の予想・予測は、難しくなるだろう、と考えていました。

ところが、クロス円に関しては、今のところ、むしろドル/円よりも円安傾向が強く、素直に動いている印象です。

結果としては、想像していた通りに、難しい相場になっています。

引き続き、この難しい値動きが維持されるのだろう、と考えます。

換言するならば、ドル/円が当局の介入により値動きが制限されても、クロス円の円安傾向には変化が無い、といった可能性がある、ということです。

++++
++++

高い技術を持っているプレイヤーは、あえて難しい相場に挑戦したくなるし、難しい相場を制した時の爽快感は格別なものです。

その気持ちは、理解します。

しかし、相場はゲームではないのですから、
『できれば、簡単な相場だけを相手にして徹底的に勝ち、難しい相場には手を出さずに損失を避けること』
それが鉄則だ、と考えています。

そう考えると、
『今のところは、我慢をして、積極的な相場参入は見送ること』
それも対応策です。

++++
++++

今、世界で、最大の問題点は、米国とイスラエル対イランの戦争状態です。

この問題が、未来永劫続くわけではない、と考えます。

どういう形で終結するのか、不明ですが、いずれ終結するし、

その時にも、相場は存在する、と考えます。

待つことも相場に参入しているのだ、と考えます。

++++

(2026年05月12日東京時間14:00記述)